乾隆北京全圖に就いて

今

西

春

秋

、現存最大最古の北京地圖

三、その作られた年代二、その體裁と大きさ

四、最初の北京地岡と乾隆北京地岡

五、乾隆北京地圖と同治北京地圖、其の他

、現存最大最古の北京地圖

今から五年前、民國二十四年の春のことであります。
く大きな地圖が發見されました。題して乾隆北京全圖としましたものがそれであります。これは以前その一部が故宮東路の輿圖室内に陳列してありましたので、部が故宮東路の輿圖室内に陳列してありましたので、中国を中街圖としては最大最詳のしかも亦現存最古のものを市街圖としては最大最詳のしかも亦現存最古のものであらうかと思はれるのであります。

私たま~〜去年の秋から故宮内に入り込んで居りましたこの窓真全部の焼付けを安値に手に入れることが出來たことを知りました。そこで二三交渉の細果、嬉しいことにこの窓真全部の焼付けを安値に手に入れることが出來た

ります。 とゝに、些か御紹介申し上げたいと存ずる所以であ

二、その體裁と大きさ

都合五十一冊の大形折本から成つでをります。との折の三路に分つで、この一路宛を一冊宛の折本に仕立て京全市を北から漸次十七排に分ち、每排又東・中・西京全で先づごの地圖の體裁から申し上げますと、北

であります。 手などでは持ち運びも容易でないといふ程のシロモノ る厚紙で出來た折本でありますから、女、

なる様に取つてありますので、 頁であります。 ませう。 ろげて見るとすると、 分の左右に相當ブランク頁を残してをります。第十一 本は東西兩路の分が每冊十六頁、 たのだと文献館では話してをりました。そのもと通り 員曹宗儒君はこれを六百五十分の一圖だと勘定致しま 寸、 出來た歪らしく思はれます。試みにこの折本全部をひ 分乃至九分。頁によつて差異があるのは裏打ちの際に 十一排で外城に入つてをるのであります。毎頁の大き の體裁と申しますのが、 つたさうでありますが、これをもと通りの體裁に締 下方に前三門を連ねる城壁があります。つまり第 面積にして大約五十七坪はまづ相當なものであり 發見されたときは、 曲尺で縦二尺七寸四分乃至五分の横一尺六寸八 あとで叉申し上げますが、 但しこの頁數は外城の方で圖が一杯に 縦四丈六尺六寸に横四丈三尺七 厚さ二分餘りもあらうかと思 虫食ひだらけ 内城の方では東西兩路 中路の分が毎冊二十 故宮文献館の編纂 のボロく 子供の 0 だ 史館、 目錄參照

中に含まれた重な地點、 具へて居ります。 も寧ろ烏瞰圖とでも言つた方が、 拙き盡したものでありまして、この點地圖といふより で最大洩らさず、しかも巧に遠近法を應用して刻明 建築物は言はずもがな、市井一介の民家陃屋に至るま ら寫眞で御覽になる通り、宮殿、樓閣、寺廟などの大 してをります。例へば第二排中の一冊の表紙には をります。それから折本毎冊の表紙には、その一冊 丘陵などには夫々靑又は褐色の淡い色どりが施されて た重だつたところを示してをるわけであります。(後掲 まあざつとかういふ大地圖であります。それですか 錢局、 鐘樓」と記して、この一 全體は墨繪でありますが、 邸宅、 寺廟などの名を標出致 相應しいおもむきを 册 の中に含まれ 河や池、 或

いの に描 尚、 かれたものであります。 で、 **興圖房内の地圖には絹に描かれたものが尠くな** 念のためつけ加 へて おきますが、 ح の圖 は紙

三、その作られた年代

さてからいふ驚く可き大地圖でありますが、 との地

君が考へて、文献特刊に「清內府藏京城全闘年代考」 の保證するところであります。そこで曹君の說といふ でありますが、曹君の說に相違ない と題して掲げてゐるのであります。この考說は無記名 は私が考へたのではありません。さきに申しました曹 のないところかと考へられるのであります。この年代 當つてをりません。然しこの地圖が、已に標題に掲げ り乾隆十五年の頃に出來たものであることは略々疑ひ ておきました通り乾隆、詳しくはこれから申します通 のところ、これらのことに就いて記した傍系史料も見 はなくてもと~~なかつたものらしく思はれます。今 姓名など一切記すところがありません。紛失したので 圖 を御紹介申し上げますと。 には序だとか跋だとか、若しくは年號、描いた人 ことは故宮文献館

良寺は乾隆二十年に冰盞胡同に移轉した。 に就いてよく考へて見ると、第一、西帥府胡| らうといふ大體の見當はつくが、更に地 『この北京圖の目は、已に乾隆二十六年の造辦處與 即ちこれを以て本北京闘は乾隆初年のものであ 「蘿圖薈萃」といふもの ム中に見えてゐ 闘中の 然しこの の賢 地名

> 隆十 であらう。』 五年の間にあらうことは殆んど疑を容れないところ つて以て思ふに、この周の繪修年月が當に乾隆 ろの所に移建せられた。 の所にあつた壽皇殿は、乾隆十三年に景山の眞うし にこれ等のものが記されてゐない。第三に又、 乾隆十六年のことである。ところがこの闘にはとも 圖は仍ほ原地にある。 第二、長安門外の三座門は乾 闡福寺は乾隆十一年に建てられ、景山の東うしろ 壽皇殿も亦景山の眞うしろに位置してゐる。 九年に增建し、地山五峰に亭が建てられたのは 此の圖には已に闡福寺も有 西苑 ょ

0

以上曹君の年代考證であります。

ろに筆を執りますが、又この種の失敗刺くないもの ^ 様で といふものは實によく色んなことを諳じてゐて、たちどこ 私つら~~見て居りますに、曹君に限らず支那の學者先生 號を記憶違ひしてゐて書いたことなのださうであります。 私、曹君に質して見ましたところ、これは彼が會典中の年 えて居ります。それで十三年といふ年は何處から出たの 十四年のことであります。このことは光緒會典八六三に見 所で森さんの御注意によりますと、壽皇殿の移建は乾隆 か

考へられないわけではありませんから、大約この頃と とによつて斷言してしまふのは穩かでありますまい。 が、然しまあこれだけの大きな地圖の一部分だけのこ 見ておいたらいゝのだらうと思ひます。 或る程度の區劃々々が漸次完成されたであらうことも ぎりく一のところまで、つきつめられる様であります そこで結局、この圖の繪修年月は乾隆十五年といふ

まして、實錄其他若干心當りのものも繰つて見たので 考ふ可きなしと曹君も記してをります。今も尚分らな ありますが、さきにも申します通り、つひに手掛りら しいものをも得ることは出來ませんでした。 いとは曹君の話であります。私も實は念のためと思ひ 次に誰人がこの圖を作つたかに就いては殘念乍ら尙

四、 最初の北京地圖と乾隆 北 京地 圖

に記してゐるのであります。 る旨一寸申しましたが、このことも矢張り今の考說中 めに本圖は六百五十分の一 圖だと曹君が言つてゐ

大の大地理學者である室賀信夫君の懇切な書信を寄せ が多分あつてゐるだらうと思ひます。私の好朋友で京

清宮史續編(嘉慶年編)興圖 京城全圖計五十一冊。紙本凡十七排。每排縱約二 尺六寸。分東西中三路。東西橫一丈三尺。中橫 目の一項に、

丈六尺二寸。

記載の寸法と、それから清會典の京師城垣規制 尺の寸法とは較々遠つてをります。曹君はこの興闘 あり、尺は營造尺でありますから、 りますまい。横の長さは折本を全部ひろげての長さで のる地圖に就いて記したものであることは言*ふ*迄もあ といふ記載がありますが、これが今こうで問題にして 內外城東面共長二千八百七十二丈三寸。北面二千 私の申し上げた曲

百五十分の一といふ數は私は勘定しなほして見ません り出して來てくれた文献が嬉しいわけであります。六 を比較して見てもよい筈でありますが、曹君のひつぱ よらなくとも,今の實際の市街面積と地圖の大きさと とあるものとを比較して、この圖は當に六百五十分の 一圖だと勘定したのであります。尤もこんな手續きに 三百三十二丈四尺五寸。

るとすれば珍らしく日本は大抵三千分一位にて五百分が足といふものは市街圖としては市街の全部揃つてゐて教へてくれたところによりますと「六百五十分一の

あります。その地圖面の大がゝりなことは寫眞で御覽大市街圖を作つたことは珍らしいことに思はれる」との爲の圖のやうなものに過ぎず、六百五十分の一にて一といふ樣なものもあれど、それは極く一部都市計劃るとすれば珍らしく日本は大抵三千分一位にて五百分

ます。

ます。然し考へて見まするに、支那の測量事業はこれが、實はその程のことは一向私には分らないのでありか、このことはこの地圖の精密度如何といふこととものに如何程の困難があるものか、又さしては無いものはざるを得ないのであります。この程の大地圖を作る

と支那學の起原」の中に次の樣に說かれた一說がありことに就いてゞあります。後藤末雄博士の「支那文化年間に一たん測繪せられたことがあると言はれてをるなければならないことは、北京の地圖は已に早く康熙

正確な幾何原理で從つて其の地形を則量したのであ郊の地圖を測成した。彼等は支那人の通說を斥け、であつた。偶々君側の耶蘇會士が北京市及び其の近西歐學僧の科學的造詣や操作の熟練に感服されたの『康熙帝は西歐科學文明の發達に驚かれると同時に『康熙帝は西歐科學文明の發達に驚かれると同時に

になる通りでありまして、流石乾隆盛代の産物だと思

なことを歎賞された。』つたから、皇帝は此の地圖をみそなはし、その正確正確な幾何原理に從つて其の地形を測量したのであ

l'Empire de la Chine であります。それから Richt-chroire de la Chine であります。それから Richt-chroire de la Chine であります。 海に興されたものであることが述べられてあります。 海に興味深い記述でありますが、然し残念なことには、この味深い記述でありますが、然し残念なことには、この味深い記述でありますが、然し残念なことには、このいたものであることが述べられてあります。 海に興かりあつて、それから例の全國測量の大事業に着手かりあって、それから例の全國測量の大事業に着手

0

かとも考へられます。

しかもこゝで申し上げておか

技術的には或はさした困難を感ぜずしてものし得たもからとて、それは要するに仕事の量の問題であつて、

れば、この北京圖が如何に尨大であり、又精密である

てをります。

よりさき、康熙末年の頃に於いて空前の大成果を收め

かの大皇興闘を作り上げた技能を以てす

在は、

۴

ユアルドの北京圖といふものを考へるのに、

して、 本であります。 つて劃される一割、 東安門、北、地安門、 て何ひますと、 北京に残つてゐませんが、劉君の記述と寫眞とによつ と稱してゐるものであります。この圖は現在南遷じて **圖年代考」と題して發表してゐます、あの清の皇城圖** す。と申しますのは、 この考へ方を力附ける様な 物が飛び出す樣なことが無いとも限りますまい。 理の地圖が殘つてゐると言ひます。或はひよつこり現 と思ひます。 であるといふことはこれによつて考へ得られるだらう (民國二十四年十二月)に劉敦楨君が「淸皇城宮殿衙署 圖の大きさは縦七尺八寸五分の横五尺九寸。絹 故宮で訊くと輿圖房内には未だ澤山未整 この大きさは概算して乾隆北京圖 圖の範圍は南、 所謂皇城根一區を包含するもので 西、西安門と大體この四門によ 中國營造學社彙栞第六卷第二期 地 一圖が 見出されて をりま 大清門から起つて、東、 現に の約

何代の建物が見えるとか見えないとか云つた式のもののあります。この圖の年代を劉君は考證して康熙代のもの來ます。この圖の年代を劉君は考證して康熙代のもの本ます。この圖の年代を劉君は考證して康熙代のもの本ます。 宮殿、樓房、家屋等の五分の一大位の樣であります。宮殿、樓房、家屋等の五分の一大位の樣であります。宮殿、樓房、家屋等の

當りません。

支那側にはこの記述にあたる樣な記錄が今のところ見れども矢張り兩者共に年代の記述を缺いてをります。ひてゐることを先日フツクス博士に敎はりました。け

残念なことでありますが、

然し北京市の

科學的な地圖が康熙時代已に早くも作られてゐたもの

得た素地を考へて見ますと、考へは自づとドユアルド けないことになります。然し乍ら、 のと見なければならないさうでありますから、一層 ころによれば、これは少々年代を引き下げて雍正のも ドュアルドの傳へるところの北京市街圖の一部分であ 假令一部分にせよ、康熙時代に早や斯の如く立派な北 とを有つたとは考へられません。 るなどゝ言ふのではありません。 京市街圖が存在したことになります。然しこれを以て くは彙刊に就いて見て頂きます。兎も角劉君によれば でありますから、こゝでは格別申し上げません。 つた最初の北京市街圖がこれ程のスケイルと支那臭さ 北京圖に及びはしないでせらか。つまりこの圖の存 しかも曹 外人宣教師の手にな かく程の圖を作 君の語ると

何

やら一歩の近づきを與へたもの」様に思はれるので

に乾隆圖と辿つて見ますと、こゝにもまことに好いそ けられます。 康熙帝のそれを模倣擴大したあとが到るところに見受 肯し得られます。 0 擴大して乾隆周になつたものであることは一見して首 贅言を費す必要はありますまい。 あります。 一例が考へられるのではないかと思ひます。 皇宮周と乾隆周との關係に至つては最早や ドユアルドの圖から皇宮圖、 御存じの如く、 乾隆帝の事業には、 皇宮闘の規模が更に それから更

五

乾隆北京地圖と同治北京 其の他

着々と研究を進めて、その甚だ高いものであることを 在史料としての 乾隆帝の趣味とい が果して幾何程度にまで實用性を具へたものか、たゞ わけになるのであります。 最古のしかも最大の北京地圖は、この乾隆圖だといふ 以 上申し上げるところによりまして、 今私には分別致し無ねます。 價値に就いては、 ふ程のことで出來たものか、その程 からいふ法外に尨大な地圖 已に前述曹君などが 然しこれが現 結局現存物中

であります。

曹君推敲の上は何れ何とかして い原

明らかにして居ります。序にこゝに御紹介申しておき 5 7 故宮の中に、もら一本乾隆圖と同大同樣の地圖が 稿が出來てをります。 ものがあつて現在は三十七卷しか残つてをりません。 なつてをります。 すが、たゞ乾隆闘の折本に對してこれは卷子仕立てに 隆圖と全く同一寸法、 ときに改訂したものだとしたのであります。 まして、これを、やはり曹君が考へて乾隆闘を同治 は結論をさきに申し上げることになりましたが、實は 世に出る樣にしたいものと思つてをります。 ますと、曹君の研究は「北京城坊考」と題して堆 乾隆圖は同治に至つて改訂が加へられました。 全部では五十一卷ある筈でありますが、紛失した 乾隆圖の一冊が一卷子に仕立てられてをりますか 同一描法に成つたものでありま これは乾 とれ あ

學誌第七卷第一二期號に「恭王府沿革考略」といふも ります。この變つた跡を考へて曹君は同治だとしたの たゞところく一邸宅が變つたり胡同が變つたりしてを 序も何もないことは乾隆圖と全く同じでありますが、 先頃曹君の後輩である單士元君が、輔仁 紙を用ひてゐる 點は 同じで ありま 躍らせたのでありますが、

一見致しますに、北京圖と

兎も角、

北京圖の一部と

同元間 せんでした。然し同君の「同治北京圖考」は不日發表 だと單君も語つてをりました。 まで曹君の「光緒ではない」といふ考へが出來上らな くはそれに就いて見で頂くことゝ致します。 の約束になつてをりますから、 いふ理由を質して見ましたが、一向曖昧で要領を得ま かつたので、 以 上で乾隆北京圖の御紹介を終りましたが、 の圖だと說明してありますが、これはまだ最近 曹君の舊考の儘かくは説明しておいたの 暫くお待ち願つて詳し 私は曹君に、同治だと 尙一つ

せん。

0

との

中化

本圖

の部分寫眞一

薬を挿入して、

ぞ或は所謂康熙圖とも稱し得べきものではないかと胸 續編與圖目にも見えてゐるので、 申し上げることはありませんが、 きました乾隆圖と同治圖のことでありますから、 務府造辦處輿圖房圖目」の 附け加へて申しておき度いことは、 城全闘二份とあがつてゐます。これは今迄申し上げて 一三の地圖に就 幅」とい ふもの いてどあります。 があがつでをります。 「都城宮苑」の項に見える 實は私は最初、 その次に「北京城圖 まづこの項第一に京 故宮出版の これは清宮史 「清內 これ 今更

> 門圖一幅」「天安門至大清門圖一幅」。この三幅も にパッとしないものであります。 つまらぬ地圖で、殆んど印し上げる程のこともありま 或は「北京城圖一幅」ななど」いふものも、 であります。續いて次に二つ見える「京城圖式一幅」 分四方位の四角にしか過ぎません。一寸失望致したの まあ河北圖とも云ふ可きものでありまして、 は以ての他、 それから「乾清門至太和門圖一幅」「午門至天安 幅」「北海圖一幅」「中海圖 實は山東から山西の方面までも含んだ、 然しそのあとの 一幅」「南海圖 北京は五 まことに 一幅 一向

幅は相當パツとすると申しましたが、然しパツとする どこれ等の

圖が極く部分的の ものであることだけは一見し 何時頃のものかも、 ふ相違があるのであります。 何れ故宮工作人諸君によつて詳しく考へられる筈にな す。景山圖が同治のものであるといふ他は例によつて に拘はらず、 何れも相當見榮えのする古地圖で さきの三幅 これらの まだはつきりしてをりませんが、 はパツとしない、 ものにしか て確かめ得られます。 圖が乾隆圖と同 過ぎないとい のちの 樣式 ありま

つてをります。

な

V

この) 山圖

四幅は

して 以 御紹 下にあがつてゐるものは未だ見てをりません。 介だけはしておいてい ムかと存じます。「南海

私が 個の北京地圖史、大きくは支那地圖史とも稱す可きも 京地闘史に就いては更めて森先輩の卓見を拜聽したい 感染してしまつてのことであります。 森先輩の いでになります、識見亦他の及ぶところでありません。 北京地圖につき殊の他豐富なコ ろではありません。幸ひ御列席の森先輩は官撰私撰の るのでありませうが、然しそれは今私のよくするとこ 0 めて申し上げた次第であります。 Ď ム中に於て見てこそ又格別の意義も興味も見出され 以上乾隆圖につき、 と存ずる次第であります。 この様なものに興味を有ちましたのも、 コ レクションを見せて頂いてゐる中に、つい 少々その枝葉の様なものをも含 V 勿論問題はこれを一 クションを作つてお 個系統ある北 質は度々

(昭和十四·四·六。 於北京學會講演

附。 乾隆北京全圖 乾隆北京全圖 目錄 目錄

、東路册、中路册等の意なるを示す。「数字は排數を、東・中・西とあるは夫々

1 東

中 安定門、 經史館 寶泉局! 西廠、

拈

花寺、

西 積水潭

2束 栢 林寺、 理郡 王 府、

履親

王

府、

多 羅

貝勒允祁

國史監、 **固山貝子弘景、** 錢局、 硘 鐘 局、 樓 輔

國

公弘

崇玄觀、

西 中

貝勒球琳

3東 東直門、 北新倉、 寶錢局

西 中 大興縣、 順天府、 鼓樓

護國寺、 恂郡王府、 多雞貝勒弘明

4東 和親王府、 興平倉

顯佑宮、 愉郡王府、 多羅貝勒裴蘇、 地安門、 宛平縣、和敬固倫公主府 順天府儒學

中

莊親王府、 護國寺、 果親 王府、 愼郡

王府

西

5東 南新倉、 富新倉、 舊泰倉

織染局、 咸親王府、 弘仁寺、 簾

子庫、花砲作、

中

莊親王府、 輔國公九如

西

蠶壇、

吉安寺、

闡福寺、

子、 東作廠錢局、 弘雕、 朝陽門、 南作廠錢局、 恒親王府

6東

大西天

怡親 王府、 固 Щ

西

直門

11東 伊爾登 崇文門、 正陽門、 泡子河、 東便門 輔國公盛昌

西

府

平郡王府、

輔國公斗保、輔國公成保、

輔國公

9東 **7**東 8東 西 中 西 中 西 帝王廟、 寧郡王府、輔國公如松、 祿米倉 乾清宮、光明殿 泰平倉 隆福寺、 簡親王府 王府 社禝壇、瀛臺、賢良寺、太廟、皇史宬、 輔國公恒魯 太和殿、光祿寺 寧、輔國公弘脘 康親王府、貝勒永興、 妙應寺、 崇竺寺、 阜成門. 景山、漢經廠、 順承郡王府、 寶源錢局 永安寺

14東

正監族營房 善國寺

西 中

中

天橋

輔國公與

废渠門

精忠廟、金魚池

西

鑲藍族營房

琉璃廠 稅課司 西

西便門、宣武門、

16東 **15** 東 西 中 西 中 西 左安門 法源寺 大享殿 萬柳塘 神祇壇、 弘仁萬壽宮 大壇、 先農壇 正藍族新營房 廣寧門、 報國寺、

10東

貢院

裕親王府、

翰林院、

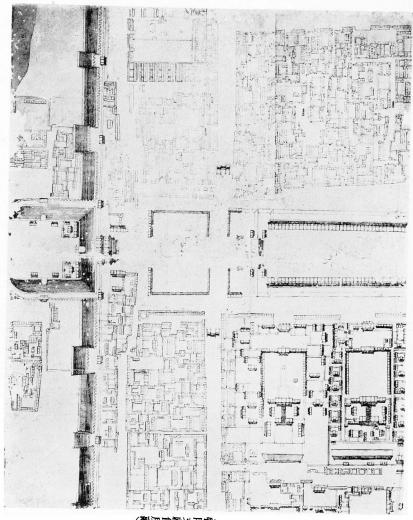
變駕庫、

昭忠祠、

顯親王

信郡

今西「乾隆北京全闇に就いて」参照。 岡は第十一排中路岬中の二頁。中央下部の門が正陽門、俗に所謂前門である。



國版第八乾、除、莊、京、園((柳陰文獻館所藏)